(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過要領」

九月十九日

午後三時ヨリ宮中ニ於テ御前會議開カレ、參謀總長宮、軍令部長宮、近衛總理大臣、松岡外務大臣、河田大藏大臣、星野企畫院總裁、原樞密院議長、澤田參謀次長、近藤軍令部次長參列、左記ヲ議題トシテ審議ヲ定メラル

日獨伊三國條約締結ニ關スル件（御前會議議題）

日獨伊樞軸強化ノ爲別紙要綱ニ依リ獨伊兩國政府交渉ヲ遂ケ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スルコト

要綱

一、日本國ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關シ獨逸國及伊太利國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

外務省

(日本語原文番号)
IMT 630 94

三、獨逸國及伊太利國ハ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ日本國ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重スルコト

四、日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記ノ趣旨ニ基ク努力ニ付相互ニ協力スルコト竝ニ右三國ノ中一國カ現在ノ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラサル一國ニ依リテ（公然ト又ハ陰密ニ）攻擊セラレタル場合ニハ有ユル政治的、經濟的及軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スヘキコト

五、日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互相倚リ現ニ變化シ又變化シツツアル世界情勢ニ適應スヘキ世界新秩序ノ建設ニ依リテノミ平和ノ公正ニシテ恒久的ナル基礎ヲ造リ得ルモノナルコトヲ信シ其ノ實現ニ關スル各自ノ努力ヲ整調結合スルコト

IMT 630

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

四、日本國、獨逸國及伊太利國ハ前記各項カ日獨伊三國ノ各ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ現存スル政治的狀態ニ如何ナル影響ヲモ及ホササルモノナルコトヲ確認スルコト

定刻出御アラセラレ、次テ近衛總理大臣ハ先ツ開議ノ趣旨ヲ説明ノ上、外務大臣議題ノ説明ニ當ルヘキ旨ヲ宣ス、即チ左ノ如シ

御許シヲ得タルニ依リマシテ本日ノ會議ノ議事進行ハ本大臣ニ於テ之ニ當ルコトニ致シマス

御承知ノ通リ支那事變ハ未タ解決セサルニ當リ、近來米國ノ我國ニ對スル態度ハ相當強硬ヲ加ヘテ居リマスカ、米國ノ態度カ硬化スルニ連レマシテ、重慶政府其ノ他日本ニ敵意ヲ有スル各國政府ノ態度ニモ影響シ、我國ノ國際的地位ハ益々困難トナリ、

イヒハセヘキ筈ニ御座ヒマス、自番ハ其ノ間ニ關スル信ヲ

ノ方ニ於テ合ハスル樣ニ自番ハ自番ノ考ヘ方ニ於テ

ノ化リ變又ハ化リ變ニ東ヒ伊及獨逸國ハ相互ニ

四日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互ニ

ヒイ

蓋シ的番車及的番鑾、的番鑾ニ有ルモノヲ合ハセテ

一國ニ番鑾ヒマシテ一國ニハ一番鑾ヒマシテ

日ハ交番鑾ノ中一國ノ三國ノ中ニ於ニ

ヒイ

日本國、獨逸國及伊太利國ハ相互ニ

ヒイ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

前途誠ニ憂慮ニ堪ヘサル次第テアリマス、此ノ難局ヲ打開致シマス爲ニハ、我國ノ國際的立場ヲ強化スルコトカ必要テアリマスカ、其ノ方法ハ現在ノ環境ニ於テ我方ト利益ノ一致スル國家トノ提携ヲ強化スルコト以外ニハナイト思ヒマス、然ルニ獨伊ハ米國ノ參戰ヲ防止スルコトヲ希望シ、我國ハ米國トノ危機回避ヲ希望スル點ニ於テ、利害ノ一致ヲ見テ居ルノテアリマス、依テ政府ハ組閣以來鋭意此ノ方向ニ向ツテ努力ヲ續ケテ來タノテアリマスカ、最近ニ至リ遂ニ御手許ニ差上ケマシタルカ如キ要綱ニ依リ、我國カ今次歐洲戰爭ニ參加スルコトナクシテ、右兩國トノ提携ヲ強化シ得ルノ機運ニ達シ、右ニ基キ兩國ト交渉ヲ遂ケ度イト思ヒマス、而シテ本案件ハ固ヨリ平和ヲ目的トス

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

ルモノテアリマスカ、最悪ノ事態ノ發生ヲモ覺悟スル必要カアリマスノテ、我國運ノ消長ニ關スル未曾有ノ重大案件ト申スヘキテアリマス、依ツテ極メテ愼重ニ審議ヲ盡シ、御決定ヲ仰キ度イト考ヘマシタノテ、本會議ノ開催ヲ奏請致シマシタ次第テアリマス、本案件ノ本日迄ノ經過竝ニ獨、伊兩國政府トノ間ニ締結セントスル條約要綱ニ付テハ、外務大臣ヨリ詳細説明致サセ度イト思ヒマス

次テ松岡外務大臣ハ議題ノ説明ヲ爲ス、即チ左記ノ如シ

甲、經　過

本大臣ハ七月下旬、現内閣カ成立致シマシテ以來、只今内閣總理大臣ノ申サレマシタ趣旨ニ基キ、獨伊トノ政治的提携ヲ

強化シタイト思ヒマシタカ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ蹂躙シ、英本國ノ如キモ、旬日ヲ出テスシテ、容易ニ征服シ得ルト云フヤウナ氣勢テコサリマシテ、獨逸ニ於ケル我國トノ提携熱ハ一般ニ極メテ低カツタノテアリマス。然シナカラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトカ出來マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壞戰ハ事シカク容易テハコサリマセヌ上ニ、更ニ米國ト英帝國ノ殘存勢力トカ結合シテ出來ルトコロノ「アングロ、サクソン」王國又ハ「ブロック」トモ云フヘキモノト今次ノ戰爭ニ依ツテ強大ヲ加ヘタル「ソ」聯邦ト云フ二大勢力ト對抗シナケレハナラヌコトハ明瞭テアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀

外務省

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概

ナル民族ヲ持ツ我國ノ力ハ偉大ナルモノカアリマスノミナラス、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ、皇國ハ實ニ世界ノ天秤ヲ左ニテモ右ニテモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノカ、不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解テアリマス。而シテ此ノ事位ハ「ヒトラー」總統及少クトモ其ノ周圍ノ者タケハ認識シテ居ルテアラウト想像シマシタ、否ソノ容子カ多少窺ハレタノテコサリマス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相當ノ熱意ヲ持ツテ居タヤウテアリマス。根本ニカヤウナル考ヲ持ツテ居リマシタカ故ニ、私ハ諸般ノ情況上一應ハ急キタイト云フ心持ノ中ニモ、固ヨリ下手ニ出ル要モナク、又已ムヲ得ナケレハ英本國屈服後トナツテモカマワス、若シサウナツタ

ナラハ、愈々以テ綏ツクリト構エヤウト決意致シテ居ツタノテアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト見ラレルヤウナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ外交上禁物テアツタノテコサリマス

我カ獨自ノ立場ヲ堅持シ、必スシモ獨伊ト結フノ要ナシ、若シソレカ我國ノ存立ト使命遂行上、必要又ハ便利テアルナラハ、米ト結ヒ、或ハ英ヲ救フコトヲモ敢ヘテ辭セヌト云フ委勢サ〳〵示シテカカラナケレハナラヌト信シタノテアリマス。ソレカラ、何ヨリモ先ツ獨伊始メ世界ニ向ツテ本件ニ關シ斥候戰ヲ始メナケレハナラナカツタノテアリマス。本大臣ハ就任前後ヨリ遲滯ナク之ヲ開始シ、少シク容子カ知レマシタノ

ヨウナ事ハ英本國ト獨伊ト間ニ於テモ、若シ小樣ノ中ニモ、同ジヤウニ出テ來ルヤウナ事ハ、ソノ中ニ、ソノ中ニ、ソノ中ニ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概

テ、一歩ヲ進メ本大臣ハ八月一日「オット」大使ヲ御茶ニ招キテ、樞軸強化カ我朝野ヲ通シテノ傾向ナルハ貴大使モ御承知ノ通リテアルカ、ソレカ物ニナルニハマダマダ容易テハナイ、朝議モ未タ具体的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣旨ヲ告ケマシタ上、支那事變ハ日本獨力ニテ其内片付ケル考テアルカラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハサレナイテヨロシイト申述ヘマシテ、一應大使ノ仲介セントスル口吻ヲ押ヘ、我建國以來傳統タル八紘一宇ノ大理想ヲ實現セントスル決意ノ眞劍ナル事ト、先ツ之ヲ大東亞共榮圏内ニ於テ試ミントスルモノナル旨ヲ説キ、次テ、タトヘ英本國カ間モナク屈スルトモ、ソレハ大英帝國崩壞ノホンノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

サル所以ヲ申聞ケ（大使モ同様ノ事ヲ自ラ進ンテ申シテ居リマシタ）右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、獨モ亦日本トノ提携ノ可否ヲ決スヘキテアルト結論シ(一)大東亞圏ニ對スル前述ノ日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又コノ圏内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、(二)日「ソ」關係ニ就キ獨逸ハ如何ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、(三)日米關係ニ就キ如何ニ考フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、以上三項ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急「ヒトラー」總統ト「リッベントロップ」外相ニ架電シテ、其返事ヲ得ラレタシト告ケマシタ

右ニ對スル返事ハ容易ナラストシテ、獨大使ハ澁ツテ居リマ

大英帝國側ハ難解ナルカ、ドウカセヤウ思ハレマスガ、英ヲ
ヤツテ貰ヒ、米ヤ、ソイハ英本國ヲ開ケテ居ルカラ、ソノ
間ハ、ヤハリ、ソイニモ英ヲ攻メテ貰ヒ、ソノ決ッタ
イ、ソノ大東亞共榮圏内ニ於ケル、ソイニモ英ヲ攻メテ
貰ハネバナラヌ大世界ヲ實現スルニハ、ソイニモ英ヲ攻メテ
貰ハネバナラヌ、ソイニモ英ヲ攻メテ貰ハネバナラヌ、
獨ハ、ソノ一部ハ大英帝國ヲ攻メテ貰ヒ、獨逸自身ハ、
獨逸ハ、ソノ一部ハ大英帝國ヲ攻メテ貰ヒ、獨逸自身ハ、
ソノ間ニ獨逸ニ於テ、ソノ一部ハ大英帝國ヲ攻メテ貰ヒ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

シテ、私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイテアラウト豫想シマシタトコロ、果シテ來マセンテシタ。私ハ態ト催促セスニ放ツテ置キマシタ。然ルニ、「リッベントロップ」外相ハ其東洋問題ニ關スル懷刀テアルト言ハレテ居リマスル、「ハインリッヒ・スターマー」總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二十三日「ベルリン」出發、急遽「モスコー」ヲ經テ、本邦ニ送ツタノテアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタノテアリマスカ、本大臣ハ別ニ急イテ會ヒタイ態度ハ示サナカツタノテアリマス。トコロカ九日先方ヨリ會見ヲ申出テマシタノテ、人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸テ、同公使及「オット」大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概

ケ九月十一日三度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ獨逸本國政府ト本大臣トノ間ニモ意見ヲ交換シタル結果、御手許ニ差上ケマシタ要綱ノ如キモノニ大體落チツキマシタカ、此要綱ニ掲ケラレテ居リマス各點及ヒ八月一日「オット」大使ヲ經テ「ベルリン」ニ電報セシメ・マシタ本大臣ノ質問各點ニ付キマシテハ「スターマー」ハ明確率直ニ其ノ見解ヲ述ヘテ居リマシタ次第テ、此點ハ本大臣ニ於テモ滿足ト致シテ居ル次第テアリマス。依テ今後更ニ是ニ基イテ交渉ヲ進メ細部ニツキ妥結ニ達シタイト思ヒマス。

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

乙、要綱ノ説明

第一項ノ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスカ、當方テハ當初「アフリカ」ニ於ケル新秩序建設ヲ先方カ持出スカト思ツタノテコサリマスカ、先方カ之ヲ持チ出サナカツタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第テアリマス。

第二項ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、「タイ」國、「ビルマ」、海峡植民地、蘭印ヨリ「ニューギニヤ」、「ニューカレドニヤ」等ヲ含ム「オセアニア」ノ島嶼ヲ含ム意味テアリマシテ、此ノ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

コトハ此際ノ事テモコサリマスシ、ソレニ東亞ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスコトト豫想サレルコトテモコサリマスノテ、先方ヘハ態ト大攏ミニ話シ、濠洲ト「ニユージーランド」及其以南ハ今ノ處這入ラヌカ、時ト共ニ自然範圍ハ擴カルナラン、ト申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細マクハ尋ネスシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルカ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フカ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘテ貰ヒタイト申シテ居ルノテアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

獨伊ノ協力ヲ得ンコトヲ期待スルモノデアルト應酬シテ置キマシタ。

第三項ノ中「一國又ハ數國ニ依リ（公然若ハ陰密ニ）攻撃セラレタル場合云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻撃セラレタル場合ニハ自働的ニ參戦義務カ發スル次第デアリマシテ、即チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ這入ルノデアリマス。「公然若ハ陰密ニ攻撃セラレタル場合」ノ「公然若ハ陰密ニ」ノ文句ハ先方デ入レテ來タノデアリマスカ、「スターマー」公使及「オット」大使ハ一應ハ之ヲ削除スルコトニ賛成シ、其事ヲ「リッベン」外相ニ電報シタノデアリマスカ、マダ或

ハ日本ニ對シテ出來得ル限リ宜シク與ヘテ貰ヒタイト申シマシタ。日本ハ獨伊ノ間ニ於テ出來得ル限リ宜シク與ヘテ貰ヒタイト申シマシタ。

次ニ「勢力範囲」「経済」「原料」「指導」ノ語ハ日本ニ對シテ特ニ強ク要求シタ日本ノ經濟的利益ニ關シ重ニ獨ノ國防ニ關シ國防ハ當然

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概

ハ獨外相カ之ヲ固執スルカモ知レヌト云フ餘地ハ殘ツテ居リマス。其ノ解釋ハ相當困難デアリマシテ、特ニ隠密ニ攻撃セラルルトハ如何ナルコトテアルカ問ヒマシタ處、米國カ今ノ程度ノ事ヲ爲シテルコトヲ意味スルノテハナイ、寧ロ日本ノ爲ヲ思ツテ考ヘタコトテ、例ヘハ英國ノ有スル太平洋ノ重要地點ヲ、英トノ秘密取極ニ依リテ使用シ、或ハ直ニ米國カ艦隊ヲ「シンガポール」ニ入レル、ト云フカ如キ場合ヲ意味スルノテアルト答ヘマシタ。之ニ對シテ本大臣ヨリ、然ラハ獨伊ニ關シテハ如何、ト問ヒマシタニ對シ、先方ハ、例ヘハ歐洲戰場ニ近接セル地點、地中海ニ在ル英ノ有力ナル根據地ヲ米ヲシテ占據セシムルトカ云フヤウナル場合ヲ指スモノナル

其事ヲ「ルーズベルト」ニ申シ入レタ處、「ルーズベルト」ハ、之ハ獨逸ニ對スル一大警告ニ成ルカモ知レヌ、ト云ツテ

ヘシト答ヘマシタ。右ノ如ク攻撃ヲ二ツノ種類ニ區別スルニシロ、茲ニ「攻撃」トスル場合ニシテ、米國又ハ其ノ他ノ第三國ノ或行動若クハ行動ノ連續カ、果シテ本項ニ所謂攻撃ヲ構成スルモノト認ムヘキヤ否ハ三國協議ニ依ツテノミ決定セラルルノデアリマス。爲念何等カノ形ニ於テソノ事ヲ明瞭ニシテ置カウト云フ話合ニシテアリマス。依ツテ疑レノ辭句トナストモ懸念ハナイト存シマス。

第四項ニ就テハ別ニ説明スル必要ハナカラウカト存シマスルカ、コレハ大體前文ニスル考デ話ヲ進メ先方モ略同意致シテ居リマス。我建國ノ御詔書ノ中ニアリマスル八紘一宇即チ總テノ國民、民族カ各々其所ヲ得ルト云フ大精神ヲモ取入レテ

外務省

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過要領概

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

餘程辭句ヲ練ツタモノデ御座リマス。

第五項ハ本條約カ蘇聯ニ向ケラレタルモノニ非サルコトヲ規定シタモノデアリマス、カ、實ハ「ソ」聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノデ、或ハ第三項ノ所謂「一國」ニ相當スルモノデハアルマイカトノ疑惑ヲ生スル虞モアリマスシ、旁々日獨伊カ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇聯ヲ敵ニ廻ス懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニ「ポーランド」始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防クノ目的ニ資シヤウトスル趣旨デアリマス。

尚別ニ條約附屬文書ヲ作成致シマシテ、本條約成立後速ニ東京、伯林、羅馬ニ軍事及經濟ノ混合委員會ヲ結成シ、本條約ノ趣旨ニ基キ、實行ニ關スル詳細ナル取極ニ就テ研究セシメ、政府ニ提示ノ上政府ノ承認ヲ求メシムヘキコトヲ規定シタイト思ヒマス。又獨伊兩國カ「ソ」聯ヲシテ本件條約ノ趣旨ニ同調セシメ且我國ト「ソ」聯トノ國交調整ニ斡旋ノ勞ヲ執ルヘキコト竝ニ獨逸カ我方ニ對シ戰爭資材及技術竝要スレハ技術官其他ノ人員等ヲ供給シ、蘇聯其ノ他ヨリ石油ノ獲得ニ協力シ、又我方ヨリモ供給シ得ルモノナラハ、戰爭資材及食糧其ノ他生活必需品竝技術ヲ供給スル等ノ事ヲ約束スルコトニナラウト思ヒマスカ、形ハ一應ハ相互的ノ辭句トシナケレハ

外務省

不審内容

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過要領概

ナラヌコトト存シマス。

更ニ此要綱ノ趣旨ニハ交渉ノ成行ニ依ツテハ、多少ノ變更ヲ見ルコトモアリマセウ、又字句ノ修正ヤ形式ノ變更モ御座イマセウト存シマスカ、此邊ハ外交接衝上ノ手心ヲ加ヘルコトヲ御許シ願キタイト存シマス。但シ如何ナル場合ニモ右要綱ノ根本ノ趣旨ヲ變更スルヤウナコトハ致シマセヌ考テ御座イマスカ若シ萬カ一ニモ根本趣旨ニ變更ヲ來サネハナラヌヤウナ場合ニ立到リマシタナラハ、改メテ必要ナ手續ヲ執リマスコトニ御含ミヲ願ヒマス。

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概要

丙、結　言

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト全ク異ツテ居リマス。即チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナシト言明シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日米衝突ヲ、回避スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ皇國政府ガ從來採ツテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來本條約ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハ「カナダ」トノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ント堪ヘ難イト思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米

ロイニ嘗合シテ御覽ニ入レマス。

スマリ爲ト雖モ之ニ對シテハ、「ヒトラー」ハ、ソノ時ニ當リ、ナホ、ソノ本來ノ目的ヲ變ジテ、日本ノ歐洲戰爭ニ參加スル事ヲ、ソノ本來ノ目的ト認メテ、之ニ參加スベキヤ否ヤヲ、日本ニ對シ、要求スルコトハナカツタ。但シ、獨逸ハ、日本ガ、ソノ主ノ目的ヲ、ソノ本來ノ目的ト認メテ、之ニ參加スル場合ニ、獨逸ハ、日本ニ對シ、ソノ參戰ヲ、要求スベキ、義務ヲ有スルコトヲ、明ニシタノデアリマス。

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概要

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

大統領及國務長官ノ反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ビ南洋方面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、「ビルマ」其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居ルノデハアルマイカト、「カナダ」トノ前述共同防衛ニ關スル協定成立ガ報ゼラレマシタル時、本大臣ハ己ニ想像シタノデゴザリマスガ、數日來果然英帝國及ビ濠洲政府ト米國トノ間ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト思ハルル新聞報道サヘ傳ヘラルルニ至ツタノデアリマス。又段々ト支那事

米ニ關聯婚姻ヲナサシメンヤ、本大臣ハ日ハ今ハ來ヤウニ感ジテ居リマス。

米間ノ提携ヲ聞ク、遂ニ、遂ヒ御承知ノ通リ、獨ト伊ハ一昨日、日、タヤ、ヤ、ヤ、

(3)
調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過概要」

變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱ンデ、國力ガ著シク減殺セラレタト見テ惻喝的言辭ヲ弄スルノデハアルマイカト想像セラルル虞モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ッテ惡化サス丈ノ事デハアルマイカト懸念セラルル有樣ニナッテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバ、唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置トシテハ、殘ッテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ強ムル爲ニ一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、且ソノ事實ヲ一日ニテモ、速ニ中外ニ宣明周知セシムルコト

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概要

ニ依リテ、米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響乃至效果ヲ注視シツツ尚米トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覺悟デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一點疑ヒヲ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセヌ。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

次テ近衛總理大臣ハ質疑ノ向ハ之ヲ述ヘラレ度シト告ケ、質疑應答アリ、後參謀總長官及軍令部次長官ヨリ夫々意見ノ御開陳アリ、原樞密院議長亦意見ヲ述ブル所アリタルモ、原案ニ反對ナク、總

理大臣ハ原案可決ヲ宣シ、御入御ノ後、參列者各議題ニ花押、續イテ上奏手續ヲ執ル、其間約三時間半ノ長キニ及フ

午後九時半、依命、齋藤顧問樺山祕書官ト共ニ獨逸大使館ニ至リ、日英衝突ノ場合ノ獨伊側ノ援助問題ニ關スル公文中字句ヲ修正シタル新案及、獨伊兩國ノ大東亞ニ於ケル商工業上ノ特權問題ニ關スル當方ノ案ヲ提示シ、先方異議ナク、直チニ「ベルリン」ヘ請訓ヲ約ス、其際同顧問ノ述ヘタル點、略ホ左ノ如シ

「日英衝突ノ場合ノ獨、伊ノ援助ニ關スル條項ハ日本側ニ於テ相當重キヲ置ク點ニシテ、日英衝突ノ可能性相當濃厚ナル際、此條項ニ關スル貴我ノ了解ハ、我方ニ於テ本條約及附屬書ヲ通過セシムル上ニ於テ、內政上極メテ重要ナル問題ナリ、松岡外相ヲシテ

理大臣ハ原案可決ヲ宣シ、御入御ノ後、參列者各議題ニ花押、續イテ上奏手續ヲ執ル、其間約三時間半ノ長キニ及フ

午後九時半、依命、齋藤顧問樺山祕書官ト共ニ獨逸大使館ニ至リ、日英衝突ノ場合ノ獨伊側ノ援助問題ニ關スル公文中字句ヲ修正シタル新案及、獨伊兩國ノ大東亞ニ於ケル商工業上ノ特權問題ニ關スル當方ノ案ヲ提示シ、先方異議ナク、直チニ「ベルリン」ヘ請訓ヲ約ス、其際同顧問ノ述ヘタル點、略ホ左ノ如シ

「日英衝突ノ場合ノ獨、伊ノ援助ニ關スル條項ハ日本側ニ於テ相當重キヲ置ク點ニシテ、日英衝突ノ可能性相當濃厚ナル際、此條項ニ關スル貴我ノ了解ハ、我方ニ於テ本條約及附屬書ヲ通過セシムル上ニ於テ、內政上極メテ重要ナル問題ナリ、松岡外相ヲシテ

(3) 調書「日独伊三国條約各種案文作成及び国内手続経過」概要